

山形県東田川郡三川町方言における 身体感覚を表すオノマトペ

佐藤亮一

はじめに

1. 調査対象地 山形県庄内地方、庄内平野の中心部に位置し、北は酒田市、南は鶴岡市に接している。交通は三川町の中心部まで、鶴岡市または酒田市からバスで15分程度。農業を主業とし、庄内米（ササニシキ）の産地として知られる。人口は1853世帯、8256人（1992年2月29日現在）。
2. 調査年月日 1991年9月15日～16日
3. 話者
小野寺 松治氏（男性。押切新田在住。同所1912<明治45>年生まれ。略号Om）
小野寺ちえ子氏（女性。松治氏夫人。押切新田在住。同所1916<大正5>年生まれ。略号Of）
志田徳右衛門氏（男性。横内在住。同所1923（大正12）年生まれ。略号S）
松田 俊一氏（男性。成田新田在住。同所1948（昭和23）年生まれ。略号M）
渡辺 清女氏（女性。成田新田在住。同所1942（昭和17）年生まれ。略号W）
4. 調査者・調査場所 調査者は佐藤亮一。渡辺氏は勤務先で、その他の方は自宅で調査した。なお、篠崎晃一氏（都立大学助教授）および大原稔子氏（女優・テレビ方言指導）が調査に同席した。
5. 調査方法 それぞれの話者に個別に面接して調査を行った（用例文の末尾の記号は話者の略号を表す）。
6. 「ス」はシとス、「ズ」はジとズ、「ツ」はチとツの、それぞれの中間的な音声（中舌音）を表す。
7. アクセントは、無表記の場合は、無核型（低平型）である。ただし、文脈差および個人差がありうることに注意したい（その点に関する調査は不十分である）。

I 全身の感覚

1-1. 快不快

さっぱり サッ^バリ スカ^ッット スカ^ント

○ア^シェ カイ^テ フロ^サ ハイ^ッタバ サッ^バリ スタ^ッター（したなあ）。

<M>

○ク^サ カ^ッタリス^テ（草を刈ったりして） ア^シェ カイ^タバ

スカ^ッットスタ。<M>

○フロサ ハイッタバ アシエ ノゲテ (汗が抜けて) スカットスタ。

<W>

○ネタバ [疲れがとれて] スカットスタ。<W>

○カミ モイデ (髪を切って) スカントスタ。<S>

「スカット」の他の用法

○ [部屋を] スカット (きれいに) カタズゲデ オゲヨー。<M>

○ スゴドガ スカット デギダ (仕事がきれいに片付いた)。<M>

○ [料理を] スカット クッタ。 (きれいさっぱりとたいらげた)

1-2. 寒さ

がたがた ガタガタ

○ サブクテ ガタガタテ ユーッケアー。<W>

ぶるぶる ブルブル

○ サブクテ ブルブルテ ユーアー。<W>

すうすう スースー スース ソンソ

○ シェナカ スーステ ネムラエネッケ。<M>

○ シェナカ スースーテ ユーッケモノ。カジェ ヒーテ スマッタ。

<W>

○ サブクテ ソンソテ ユー<Om>

1-3. 熱さ

かっか カッカ ポッポ ボーボ

○ [卵酒を飲んだら, 身体が] カッカトナテ アタマテ (あたたまって)
ユックリ ネタ。<W>

○ [卵酒を飲んだら, 身体が] アタマッテ ポッポト ステキタ。<M>

○ アタマテ ボーポト ナタ。<Of>

ほかほか ポカポカ

○ ポカポカテ イー テンキダアー。<S>

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ ビリビリ

○ 海水浴で日焼けして背中が～する。

○ やけどをして皮膚が～する。

べたべた ベチャベチャ ベチヨベチヨ ベシヨベシヨ

○ シェナカサ アシエ カイテ ベチャベチャテ ユー。<W>

○ シェナカ ベチャベチャダ。<W>

○ ベシヨベシヨト ナタ<Of>

ちくちく (むずむず) ツカツカ ツクツク

○シエナカ ツカツカテ ユー。ナニカ ハイッタカ ミテクレ。<W>

○シエナカ ツカツカテ ユーサケ ムス(虫) ハイッタカ ミテクレ。

<M>

○[藪に入ったとき] ツカツカテ ヤンダ(嫌だ)。<M>

○[とげがささって] ツクツクテ ユー<W>

「ツカツカ」の他の用法

○[とげのある話し方について] アノヒトノ ハナスワ ツカツカテ
ユーサケアー。<M>

注:「ツカツカ」は共通語の「ちくちく」に近い意味かと思われる。

ちくりと ツカッ

○[注射針を] ツカッ ササエタ(刺された)。<M>

かさかさ ガサガサ

○テ(手) ガサガサト ナタ(なった)。<W>

つるつる ツルツル ツロツロ

○ツロツロテ ユーアー。ワア(おまえの) ハダ。<S>

ずきずき ズキズキ ズキンズキン ズクズク ズクンズクン

○[傷が] ズクズクテ ユー。<W>

○[傷や頭や腹が] ズキズキテ ユー。<M>

きりきり キリキリ<M>

○[傷や頭や腹が] キリキリト イテ。<M>

注:「ズキズキ」は継続的な痛みで、「キリキリ」は瞬間的な痛み。また、

「キリキリ」は「ズキズキ」より痛みが激しい。<M>

III 頭部の感覚

3-1. 頭

がながん ガンガン

○[頭が] ガンガンテ ユー。<W>

ふらふら フラフラ

○アタマ オモタクテ フラフラテヤー。<W>

ずきずき→皮膚の感覚

3-2. 顔面

かっかと カット カッカト

○ヒトノ マサ(前に) デハッタバ カット スタ。<Of>

○ショーヌクテ(恥ずかしくて) カオ カッカト ナタ。<S>

ぼっと ポット ポッポ ホノラット

○ [顔が] ポット アカク ナタ。 <S>

○ ポッポ テ ホテテ (ほてって) キタ。 <S>

○ ホノラット アカク ナタ。 <S>

3-3. 目

ちかちか ツカツカ

○ テレビを見すぎて、目が～する。 <M>

しょぼしょぼ ショボショボ

○ [目が] ショボショボ ヲッタ。 <M>

ごろごろ ゴロゴロ

○ マチクサ (目に) ゴミ ハイッテ ゴロゴロ ヲッタ。 <M>

○ [目の] ドコラヘン ゴロゴロ ヲッタヤ (どのへんがごろごろして
いるのか)。 <M>

※ メチャメチャ

○ マチク イブタグテ (煙たくて) メチャメチャト ナタ。 <S>

注: 「メチャメチャ」は、トラホームなどで目やにが出たときや、煙やごみ
が目に入って涙が出たときに言う。

3-4. 耳

がんがん ガンガン

○ 騒音で耳が～する。 <W>

きーん キーン キンキン ピーン

○ ジェット機などの騒音で、耳が～する。

じくじく クチャクチャ グジュグジュ

○ [耳に膿が出て] クチャクチャテ ユー。 <W>

3-5. 鼻

むずむず モズモズ モソモソ モソクソ

○ [くしゃみが出そうで、鼻が] モソモソテ ユー。 <W>

っーん ツーン クーン

○ [わさびで] ハナ ツーント ナタ。 <M>

○ [わさびが] ハナサ クーント クル。 <W>

3-6. 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネロネロ ネバネバ

○ [納豆が口の中で] ネロネロテ ユー。 <M>

○ ナットーワ ネロネロテ スキデネ。 <M>

(歯)

歯が合わないようすを「アゴタタク」または「アゴタタキスル」と言う。

○サ^フクテ アゴタ^タク。<M>

○サ^フクテ アゴタタキ ス^タツ^クケ。<W>

(舌)

ひりひり ヒレヒレ カッカ ポッポ

○(辛いカレーを食べて、舌が)ヒレヒレ^レッタ。/ヒレヒレト ナ^テキタ。

/カ^クカト ナル。/ポ^ッポト ナル。

注：上記の「カッカ」「ポッポ」は舌が熱くほてるさま。

(喉)

からから カラカラ

○ノ^下 カワイテ カラカラト ナ^タ。<O f>

いがいが イライラ イガイガ

○[あくの抜けていない筍を食べて、喉が]イライラ ナ^タ。<O f>

○[空気がかわいて、喉が]イガイガト ナ^タ。/イガイガ^ッタ。<M>

「イガイガ」の他の用法

○イマ イ^ガイガ^ッタハケ(気持ちがいらいらしているから) アノヒト

ハナス スン^ナ。<M>

ぜえぜえ ジェゴジェゴ

○^タン ハバカ^ッテ(たんがひっかかって) ノ^下 ジェゴジェゴ^テ

ユー。<W>

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

こりこり ベンベン

○カ^タ ハ^ッテ ベンベント ナ^タ。<O m・O f>

4-2. 胸

どきどき ドキドキ ヒクヒク

○[走ったら、胸が]ヒクヒク^ト ナ^タ。<O m・O f>

むかむか ムカムカ

○悪いものを食べて、胸が~になった

4-3. 腹

(空腹)

ぐうぐう ^{グー}グー

○ハラ ^{グー}グー^ト ナル(鳴る)。<O f>

(満腹)

たびたぶ タブタブ カボカボ

○ [水を飲み過ぎて、腹が] カボカボテ ユー<S>

ばんばん ベント ベーント ベント ベーント

○ [食べ過ぎて/飲み過ぎて、腹が] ベント ハタ (張った)。<Of>

(腹下し)

びーびー キラキラ ツラツラ ツカツカ

○ [悪いものを食べて] ハラ キラキラト ナタ (下痢をしそうなとき)。
<Om>

○ハラ ツカツカテ ゲリアンペーデ。<W>

注: 渡辺<W>氏は、ほろよい加減で気分の良いときの腹具合を「キラキラ」と言う由。

4-4. 胃

しくしく ツクツク

○イノフ (胃) ツクツクテ ユー<W>

じくじく ズクズク ズクンズクン

○胃が~痛む。<W>

きりきり キリキリ

○胃が~痛む。<Of>

4-5. 尻

むずむず モソモソ モゾモソ

○ [尻が] モソモソテ スワテラエネ (座ってられない)。<Of>

○アス (足) ヒビラ キレテ (しびれて) [尻が] モゾモソトスル。
<S>

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル プラブラ

○ブルブルッテ フルッテル (震えている) アー。<Om>

(足)

がくがく ガタガタ

○アス (足) ガタガタテ ノボラエネ。<S>

※ ビリビリ

○アス (足) ビリビリッテ (しびれて) タタエナクナタ。<Of>

(その他)

ぬるぬる ネロネロ ネロツト

○ネロネロツテ キモツ ワリ。<Of>

VI 関節(骨)の感覚

ぼきぼき ポキン ポキッ

○[骨が] ポキント オレタ。<Om>

○[骨が] ポキツト オレタナヤ。<S>

注:「ポキン」は細い竹などが折れたとき。<S>

特徴

1. 大部分のオノマトベが「スカント」「ベチャベチャテ」「ズキズキテ」のように、「～ト」「～テ」の形で用いられ、東京語などの「ズキズキ(痛む)」のような、動詞を直接伴う用法がほとんど認められない。
2. オノマトベの大部分が無核型(低平型)であり、「ズキズキ」のような頭高型がきわめて少ない
3. 「ゴロゴロツタ」(ごろごろしている)、「ショボショボツタ」(しょぼしょぼしている)のようなアスペクトにかかわる興味深い用法が認められる(この方言では、「泳いでいる(進行形)」は「オヨイッダ」と表現し、過去形の「オヨイダ」と対立する。この「オヨイッダ」は「オヨイデイタ」の変化形と考えられる《オヨイデイタ→オヨイデター→オヨイデダ→オヨイッダ》。すなわち、「ゴロゴロツタ」は「ゴロゴロテイル」または「ゴロゴロテル」に当たる形である)。

(さとうりょういち フェリス女学院大学文学部)